

2019J2 ■順位表■第11節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	水戸	23p	+8	12	4	H●
2	山形	21p	+6	13	7	HO
3	大宮	21p	+5	13	8	
4	甲府	20p	+8	16	8	A●
5	柏	19p	+4	9	5	
6	金沢	18p	+9	17	8	
7	琉球	17p	+4	17	13	
8	岡山	16p	+1	14	13	HO
9	京都	16p	+1	9	8	H△
10	長崎	15p	+1	11	10	H●
11	新潟	14p	+3	14	11	
12	横浜FC	14p	0	11	11	A●
13	町田	14p	-8	8	16	
14	徳島	13p	-1	12	13	A●
15	愛媛	12p	-2	9	11	A●
16	東京V	11p	-1	11	12	
17	山口	11p	-4	16	20	
18	福岡	11p	-5	8	13	
19	千葉	11p	-7	8	15	
20	栃木	10p	-6	8	14	A△
21	岐阜	9p	-9	6	15	---
22	鹿児島	8p	-8	6	14	H△

次回HomeGame

第13節 vs. ツエーゲン金沢

5/12 (日) 19:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）

年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

Living in Woods

本庄工業株式会社

http://www.honjo-woodream.com/

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休:月曜日

today's guest : FC琉球

2018 J3 20勝6分6敗 勝ち点66:優勝

直近の対決と結果

2007/08/12
JFL - 後期7節@沖繩北谷
琉球 0-1 岐阜
片桐淳至 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	FC琉球
2019/04/28 J2-11節@栃木G 栃木 1-1 岐阜	2019/04/27 J2-11節@タピスタ 琉球 1-1 町田
2019/04/21 J2-10節@長良川 岐阜 0-1 水戸	2019/04/21 J2-10節@白波スタ 鹿児島 1-0 琉球
2019/04/14 J2-9節@長良川 岐阜 0-4 長崎	2019/04/13 J2-9節@味スタ 東京V 1-1 琉球

●6試合未勝利と苦しい状況がFC岐阜。4/21(日)第10節は、首位・水戸を迎えてのホーム戦となった。先制点が欲しい岐阜は、前半からボールを支配してチャンスを作ろうとするが、リーグトップの堅守を誇る水戸のゴールを割ることができない。そして後半開始直後にギアを入れた水戸の攻撃に岐阜の守備が下がってしまったところでミドルシュートを決められてしまう。同点に追いつくべく攻撃を続ける岐阜だったが、ゴールを奪うことができないまま0-1で敗戦。これでホーム連敗そして4連敗・4戦無得点となってしまった。続く4/28(日)第11節は、21位・栃木とのアウェイ戦。この試合も試合開始直後から攻撃のリズムを掴む岐阜だったが、やはり決定機を作りながら得点を奪うことができない。すると後半には前節と同様、栃木に先制点を奪われる。同点に追いつくべく攻撃を続けた岐阜は後半85分、#24 栗飯原尚平がドリブル突破して出したボールを#9 山岸祐也が決めて今季初ゴール。その後は再び栃木に攻められる場面もあったが、結果は1-1で引き分け。岐阜は連敗を4で止め、平成最後のゲームを終えた。5試合振りのゴールで連敗を脱出したFC岐阜だが、順位は21位のまま。つまりJ3降格圏内である状況は変わらないし、今季のチーム目標『6試合1クール、1クール勝ち点10』は、第2クール目も達成できないという現実も受け止めなければならない。『1試合で勝ち点1』という、いわゆる“J2残留ライン”の勝ち点も下回っているが、今は5試合ぶりのゴールと勝ち点を得られたことを、ポジティブに捉えて前を向くしかない。そして、今季の現時点では中位～下位で混戦が続いているJ2、まだ勝ち点差3以内に15位・愛媛が射程圏内にいるように、1試合の勝敗で大きく順位が変動する状況もポジティブに捉えたい。そして、チームの最大の問題点が、リーグワーストの6得点という攻撃力不足であることは明白だ。チーム一丸となって、その打開策に全力を注入して、ホーム戦でしっかりと結果を出して欲しい。

さて今節は、元号が平成から令和に代わり、初となる公式試合。その対戦相手はFC琉球だ。2014年に発足したJ3に初年度から参入し、昨季は圧倒的な攻撃力でホーム戦のシーズン無敗を達成して、J3優勝・J2昇格を決めたクラブだ。今季は新たに樋口靖洋監督を迎え、また選手も大幅に入れ替わってのJ2初年度だが、開幕4連勝を果たして首位。その後は主軸の#7中川風希がJ1・横浜Fに移籍した影響もあってか、5戦未勝利と若干苦しみ、現在は7位にまで順位を落としたが、現時点でもリーグトップの17得点と攻撃力は健在だ。その攻撃力の文字通り中心・得点源となっている1トップが、現在8ゴールでリーグ得点王の#9鈴木孝司。しかし、ここ5試合は無得点で、それが琉球の未勝利に直結しているとも言える。この#9鈴木に仕事をさせないことが、岐阜の勝利の絶対条件だ。また、若きアタッカーの#14上門知樹も現在4得点を挙げており、その突破にも注意しなくてはならない。そして、やはり岐阜の#14風間宏矢と琉球の#6風間宏希の“兄弟対決”には注目せざるを得ないし、弟が兄を超える活躍をする姿を見たいところだ。昨季まで4シーズン琉球に在籍し、昨季はJ3日本人得点王に輝いた#16富樫佑太の“恩返し弾”にも期待したいところだが、残念ながら出場は困難と思われる。そして琉球の守護神#1カルバニールの控えに回っているが、#23石井綾は15年の中京大在学時にFC岐阜の特別指定を受け、ベンチ入りを果たした選手だ。かつて岐阜は、07年JFLで琉球と対戦しており、その際は2試合とも1-0で岐阜が勝利しているが、両者ともチーム状況は12年前と大きく異なっており、あてにならないだろう。Jリーグでは初対戦となるのだから、その気持ちで試合に臨みたい。新たな元号、新たな時代。シーズン途中ではあるが、チームが新たに気持ちを締め、試合を迎えるにはいい機会だ。そして僕らサポーターは、気持ちを新たにしつつ、これまで同様に選手たちに拍手と声援を送りつづけよう。ポジティブに、前向きに。時には叱咤激励しつつ、最後まで勝利を信じて走り続ける選手たちの背中を押して支えよう。そして、新たな時代のFC岐阜を、みんなで作り上げていこう。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第10節】岐阜 0-1 水戸

●選手が替わっても監督が替わっても、何故だか対戦成績では相性の良い水戸さん(笑)。昨季は10位で今季は無敗で首位と、いやいや、今まで中位をキープし続けた“J2最年長”の水戸さんはどこ行ったんですかと言いたいけれど(苦笑)、その相性の良さを活かして連敗を食い止めたいところ。

さて、#24 粟飯原尚平を初スタメンで起用して#10 ライザと組ませる布陣は、ホーム戦でゴールを奪うことに重点を置いた采配だと僕は思った。そして実際、岐阜は積極的にボールを前に運んで攻撃を仕掛け、決定機も作るが、ゴールを奪うまでには至らない。一方の水戸は、リーグ最少失点・無敗で首位という結果が選手たちの自信になっているのか、岐阜にボールを持たれても…いや、“持たされている”という表現の方が正しいのかもしれない。ゴール前・中央をガッチリと固めて岐阜の侵入を許さない。岐阜の攻撃を“いなしている”と言った方が良いのかもしれない。そしてボールを奪うとカウンターを仕掛けて岐阜のゴール前に迫る。岐阜も水戸からボールを奪った後に、水戸がゴール前に鍵を掛ける前に素早くカウンター攻撃に移らないと、効果的な攻撃にはならないと思うんだけど、陣形を整えてからでないと攻撃には移らない岐阜の戦術。もちろん、無理な状況でカウンター攻撃に移ると、ボールをインターセプトされて更にキツイカウンターを浴びる危険がある。まずは失点をしないようにという作戦も分かるのだけれど…それとも、『できない』のか？

今季の岐阜は、前線から相手ボールを追って激しくプレスを掛ける戦術で、それが守備の前提となっている。だけどその分、選手が走り続けるから後半になると足が止まってくる。おそらくチーム練習ではフィジカルトレーニングをやっていないから、個人練習でやるしかないんだけど、そのための施設やスタッフが岐阜に揃っているか？といえば非常に疑問だ。そういえば、水戸は昨年、廃校となった中学校を改装した練習施設兼クラブハウス『アツマール』が完成している。関東圏ということで、関東の強豪クラブからレンタル選手を送り出しやすいという話も聞いたことがある。そういった要素が、昨季の水戸の躍進そして今季の(現時点ではあるが)成績に繋がっているのでは…そんなことを感じた。ちなみに、『廃校をクラブの練習施設に!』ってのは何年も前から言ってるんですが、残念ながら岐阜では実現しておりません(苦笑)。気のせいか、水戸の選手たちの方がガッチリしていて、当たり前負けしていないようだし、シュートもパスも鋭い。一方の岐阜は、今季クラブ史上最高の売り上げと利益を得たものの、練習環境は今でも貧弱だ。もちろん少しずつ良くなってはいるが、まだまだ足りないし、施設を整備するための資金とするには、クラブの利益は小さい。そういった地力の違いが、あのミドルシュートに現れたのではないかと僕は思った。同点に追いつこうと(若干?)無理をしてでも攻める岐阜に対して、カウンターで応じる水戸。しかし、先制点を奪われた後で、守備を固める今の水戸から点を奪う力は、今の岐阜には残念ながら無かった。もちろん、選手たちは必死に戦ったが、あと一工夫、あと一頑張りがたりなかった。この差が、現在の順位の違いなのかもしれない。結局、0-1で敗戦し、4連敗。だけど、下を向いている時ではない。ほんの少しだけれど(苦笑)、光明も見えたと思う。反省すべき点はしっかりと反省して改善し、次の試合を迎えてもらいたい。(ささたく)

●久々の快晴に恵まれた水戸戦。やっぱり、こういう天気の下での試合がいいですね。そして、今日は奇しくもビクトルの誕生日!是が非でも、ゴールを、そして勝利を勝ち取りたかったのですが、あえなく零封負け。残念ながら、4月の初得点、初勝ち点、初勝利はいずれもお預けとなってしまいました。さすがは首位の水戸さんです。運動量が落ちませんでした。攻守とも、多くの局面でウチの選手より人数が多かった。

味方のパスコースも選択肢がたくさんあったし、パスでもなんでもイージーミスが少なかったように見えました。

とはいえ、全くチャンスがなかったわけではありません。特に、前半の宏矢のシュート。会津のクロスからのアレが決まっていたら……という気がします。それから、初先発の粟飯原。この試合も十分に存在感を発揮。あのドリブルとシュートは見ていてワクワクしますね。24番の系譜は間違いなく継がれています。次節も、またスタメンで使ってほしい選手ですね。試合後にはFC岐阜ユース出身の志知選手が挨拶に来てくれました。昨季のアウェイ・松本戦以来の再会でしたが、何か一回り身体が大きく、分厚くなったように見えました。SB?という疑問があったのですが、前半のワンタッチクロスは素晴らしくヤバかった。フィニッシュが外れてくれてよかった(笑)。早いとこ、試合中にも応援できるようにならないかなぁ……。

また、この日は恒例のアニ×サカ。仲間の新作ゲーフラは実に念のこもった渾身の作品でした。もちろん、白鳥先生グッズも購入。先生がおっしゃってる通り、ウチのクラブのスタッフは何かがおかしい。いいゾ、もっとやれ!(ぐん)

●法事やらなんやらで鹿児島戦以来の長良川になったけれど、うーむ。横で観戦していた友人は大きなアクビをしていたし、正直言ってぼくも眠かった。興行としてのプロ・フットボールに必要な「わくわく感」に乏しい試合だった。

比較してしまうのが左サイドバック。相次ぐケガ人で、いまはヘンリーが務めているのだけど、どうしても推進力が足りない。もちろん、その分だけ(裏を取られにくいから)守備の安定性はあるのだけど。

岐阜の攻撃は、後ろから長いのを撃ち込んでFWさん行ってらっしゃいでも、長いのを撃ち込んでからそこに歩兵が殺到してポイントを作る戦術でもなく、オンリー地上戦。しかも、近代兵器を使わずにじわじわ進む陣地戦を好む傾向。だから、陣地戦に加わる戦力が減るとその分だけ火力が落ちる。彼が深く攻め入る前にアーリークロスを入れるたびに、ああここで攻撃が終わる……と思ってしまった。もちろん、彼が悪いのではない。彼が敵陣深くねじ込めるような陣地戦術を持たないチームの問題だ。

対して水戸の左サイドバックは志知。現時点で、おそらくFC岐阜ユースの最高傑作。マツコ・デラックスさんに「お前も『こちら側』なのか?」と言われようが言います。彼のカラダだけで日本酒が呑める、と(笑)。そのフィジカルを活かした攻め上がりは、塹壕戦全盛の第1次大戦で歩兵中心の防衛隊が遭遇した『戦車』のようだった。力強くなったねえ。だけど、岐阜にも『戦車』がいた。粟飯原だ。パスでの攻め上がりを重視する(注:表現を選んでます)岐阜の攻撃陣の中で、相手DFも引き連れながらの彼のドリブルは明らかに異彩だった。アメリカン・フットボールだって、クォーターバックからのパス攻撃だけならDF側はそれに対応する陣を張ればいい。そこにラン攻撃が絡むからDFの対応がむずかしくなる。「特殊化の果てにあるのは穏やかな死」と言ったのは某アニメのヒロイン・草薙素子だが、粟飯原の存在は確実に今季の岐阜の光明になると思った。だから、この試合で彼が終了間際に下がったところで「ああ、同点は無理かな」とも思ってしまっただが。(吉田 Casting)

【第11節】 栃木 1-1 岐阜

●平成最後となる公式戦。それが“裏・天王山”の一戦・20位の栃木戦というのは、まあ何と言いますか、サッカーの神様あるいは『日程くん』も、粹というか悪戯好きというか（苦笑）。そんな負けられない一戦、陽射しが照りつける中での激しい試合となった。

布陣は今季初となる3トップ。だけど#10ライザも#31宮本航汰もベンチにすらいらない。前節は出場停止だった#35長倉颯もいない。うーん、怪我人が多く出ているという風の噂は流れてきていて、しかも公式発表だと負傷者は#1岡本、#22柳澤そして#34北谷だけなんだけど、他にもいるってことなんだろうなあ…もちろん、その発表の有無さえも“チーム戦術”の一環だから、僕は心配するしかないのだけれど（※その後、クラブから#31宮本と#35長倉の負傷が発表された。無理せず治して欲しいものです）。

前節の水戸戦と同様、試合開始直後から先制点を狙って攻撃を仕掛ける岐阜の選手たち。そしてやっぱり、首位・水戸とは守備の固さが違う栃木。だから決定機は前節よりもあったし、前半の内にゴールを決めたかったけれど、決定力不足に苦しむチームは得てして絶好のチャンスを決められないものでして。#15会津雄生、あのどフリーは慌てずにピシリと決めてくれ…（溜息）。

一方の栃木の攻撃は、ある意味では非常にいさぎよいというか、シンプルで分かりやすいというか『戦術は#9大黒将志（キリッ）』というヤツで（苦笑）。ボールを左右のサイドに振って突破し、中央に待つ#9大黒に送って何とかして貰う。だから、それ以外にはチャンスらしいチャンスは無いのだけれど、何度も繰り返していると1試合で1本ぐらいい決めるんだよな#9大黒は…（溜息）。そしてマークを外しちゃった岐阜の守備陣は猛省していただきたい。あと1回、フリーでボレーシュート撃たれた時は焦ったけど、そこは#43ジーバースのビッグセーブに救われました。

多分、大木サッカーでは『誰でも点を獲っていい』事になってるんだと思っている。だけどそれは、少なくとも現時点では『誰もシュートを撃たない』ことに繋がってしまっていると感じている。チーム状況が低迷し、選手たちに自信がなくなってきた現状では、もう少しチームの攻撃に『約束事』を作って、選手たちの思考をシンプルにした方が良いのでは…と思っていたら、『俺が何とかする！』と言わんばかりの#24栗飯原尚平がゴールへ一直線の“重戦車”ドリブル。それに吊られて栃木の選手たちが集まってしまったところで、フリーになった#9山岸祐也にボールを出して、それを#9山岸が流し込んで同点ゴール！これですよこれ！こういう思い切った仕掛けや突破や崩しが、今の岐阜には足りないんだって！（歓喜）

逆転弾を見られなかったのは残念だったし、勝てる試合を自分たちで難しくしたという気持ちは拭えない。それでも、4試合ぶりに負けなかったこと、ゴールを奪えたことを好評価にしたい。そして今節、元号が代わった最初のホーム戦は、このゴールを糧にして、今度こそ勝利を！（ささたく）

●残念ながら、またしても勝利は得られなかった。1-1のドローという結果が妥当かどうか。勝てたように思う。が、それは向こうも同じ。その気持ちが試合後のブーイングだったのかもしれない。自分には驚きだったけどね。ホームチームがああいうのをやってくれと、その分こっちがアがる（笑）「やってやった！」って気がしてくるね。

この試合では、ついに自分的に待ち望んでいた瞬間が訪れた。ソレがユーヤの今季初ゴール。待ってたよ！コレで約束まで『あと9点』だな（笑）。ただ、のめり込み過ぎていたのか、誰のゴールかわからなかった。自分の不明を深く恥じたい。24番が相手を3人引き連れて進むゴリゴリ・ドリブルはしっかり見えたのね。

それにしても、またしても大黒。先制のヘッドは高さも角度もお手上げ。ヤンの逆も取った脱帽モノの一撃。ただ、その後のどフリーのシュートをお返しとばかりに弾き出したヤンも素晴らしい！あのプレーが同点弾、勝ち点1を呼び込んだと言ってもいいような気がする。

結局、4月は未勝利のままで終了。ウチの良くない傾向を断ち切ることはできなかった。ただ、前半のCK。自分の位置からはよく見えなかったんだけど、めっちゃくちゃ惜しいシュートの連発だったんだな。いや、会津がどフリーを外したのは見えただけで、キャプテンのヘッドもギリギリだったのか。それと、なんと言ってもカイケン！なんだ？あの高さは。防いだのが田代ってのが、また何ともね。まあ、「防いだ」というより「当たった」というのが妥当な気がする（苦笑）何やら、自分が勝手に懸念していたCKが、どんどん精度が上がってきたね。コレは大きい。

とにかく、アノ同点ゴールは最高だった。一步も動けず、見送るだけのGKの姿がたまらなかった。終了間際の同点弾とはいえ、一点取っただけでアレなんだから、コレで勝てた日には……。だから、わかるよね？わかってよね？こどもの日の相手も手強そうだけど、みんなで勝利を勝ち取ろう！（ぐん）

【セカンド】 全社予選、終了

●毎年4月は全社予選（天皇杯予選の社会人ブロックを兼務）を戦うF C岐阜 Second（以下『セカンド』）ですが、今季はリーグ戦（東海リーグ1部）がGWに始まることで、4/27にリーグ開幕戦→中1日の4/29に全社予選県決勝という厳しい日程になってしまいました。

県決勝の相手は同じ東海リーグ勢の長良クラブ。セカンドは1部、長良は2部とカテゴリーは違いますが、この試合では互角。試合中にセカンドの推進力だった右サイドバックが負傷交代になってしまうと、だんだんと中1日のハンデキャップが出てきます。試合はスコアレスのままで後半が終わり、PK戦へ。サドンデスまで持ち込みましたが、残念ながら敗戦となりました。

これで、セカンドは社会人・県2位として岐阜県サッカー選手権（天皇杯岐阜予選）に臨むことになりました。また、全社の東海予選は岐阜県会場ではなく（おそらく）愛知県会場での試合となります。（吉田铸造）

